

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよしこども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切に保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>

II. 今年度の重点目標

<p>・理念や保育・教育方針を理解し実践をする。 ・子どもと関わる中で、子どもの自信を育む。 ・担任同士の連携を意識し、より、子どもの様子を把握し、その子に合った対応をする。 ・大げかないよう安全な環境を見直したり、感染症にかからないよう衛生を意識する。</p>

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	法人の理念、園の教育・保育目標については、日ごろから周知することができているが、短時間職員については共通理解が持てる取組みが必要。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	指導計画は、教育・保育指針を踏まえてそれぞれの年齢に応じた園児の理解と発達の様子に対応して作成ができている。毎日の保育記録から子どもへの関わり方、援助の仕方等を職員間で情報共有する事ができている。また、改善の取組みもできている。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	教材や道具を適切に活用することができている。子どもの自発的なあそびへの意欲を引き出しねらいを達成するための教材・玩具の用意や設置の仕方においては、職員の力量にばらつきがあるため、今後勉強会や研修などの実施を通して保育の質の向上を図る必要がある。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	一人ひとりの子どもの話を同じ目線で聞き、丁寧に関わっている。目標と課題を明確にして、一人ひとりの思いを受けとめて、その思いを出来るだけ実現させようと努めている。課題として、一人ひとりを大切にする具体的な関わり方が職員によるところが見られるため、学習や研修を強化し共通の認識をもって関わる事が出来るようにする。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	職員の仕事や役割が明確であり、職員間の連携を取って円滑な園運営出来ている。職員が各委員会に所属し、園の保育や内容を深めるために、それぞれが意識を持って活動している。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	専門的な知識、良識等については、園内外の研修に参加し保育の質向上を目標としている。その目標に対して職員一人ひとりが積極的に学ぶ姿勢があり保育の質向上へと繋がられている。しかし、人によりその向上心の差があるため研修方法を工夫していく。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	危機管理意識を持ち、緊急時に対応できる体制が出来ている。避難訓練、交通安全教室等を計画に基づいて実施している。健康・安全な生活に必要な習慣等の取組みについては、園内掲示物や定期的に発行しているお便り等を活用実施している。
8	(地域との連携) 地域との関わり	地域の老人会や高齢者施設の方々を季節ごとの行事に招待したり、年長児が施設を訪問するなどの交流を図っている。又、中高生の保育ボランティアを受入れ、子どもがいろいろな世代の人たちと交流するよい経験となっている。

IV. 学校関係者の評価

<p>園のどの職員からも、保護者と良好な関係を築こうとしている姿勢がうかがえ、好感が持てる。園の保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしてくれているので安心して子どもを預けられている。育児での悩み事などの相談に親身になって話を聞いてくれるのがうれしい。駐車場の利用の仕方での要望に対して、迅速に対応してくれている。</p>

平成29年度 自己評価・学校関係者評価 結果 なかよし第2こども園

I. 教育目標

<p>教育理念 人間への基礎作りとしての豊かな創造性と感性を育てる ・体験を通して子ども自身が自分で身につけ、学ぶ能力の基盤を養う。 ・自分の頭で考え判断し自発的に行動のとれる子に。</p> <p>教育の精神 ・望ましい保育環境を作り ・適切な言葉がけを開拓し ・豊かな人間形成をめざす</p> <p>保育方針 ・各年齢の発達の特徴をよくとらえ、0歳から就学までの一貫性のある保育。 ・発達の個人差を受け止め、一人ひとりの違いが大切にされ、その違いが育ち合いを生む保育。 ・実体験を通して創造性や豊かな感性を養う保育。 ・子ども一人ひとりをあたたかく受容し安定感と信頼感を持って活動できるよう、心身共に健康的な生活をめざす保育。 ・少子化、核家族化による子育て環境の変化を受けとめ、異年齢集団の関わりの中で子ども同士の育ち合う関係を大切にす保育。 ・働く女性の増加に伴いその子育てと就労を支え、家庭の育児機能の高揚を図るとともに、地域の子育て家庭へも支援活動の強化に努める。</p>

II. 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・理念や保育・教育方針を理解し実践をする。 ・子どもと関わる中で、子どもの自信を育む。 ・担任同士の連携を意識し、より、子どもの様子を把握し、その子に合った対応をする。 ・大げがのないよう安全な環境を見直したり、感染症にかからないよう衛生を意識する。

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		評価・課題
1	(教育内容) 保育・教育方針の理解・徹底	・保育、教育方針についてはおおむね理解しているものの、意識や認識の差があるため、統一していけるよう工夫したい。
2	(教育内容) 指導計画の作成と評価	・各クラスで、月案についての話し合いをし、子どもひとりひとりの姿、育ちを元に翌月の計画を立てる事ができている。
3	(教育内容) 保育・教育環境の構成	・子どもが興味関心のある物にじっくり自分から関わっていけるよう、環境設定が出来ている。
4	(教育内容) 子どもとの関わり	・ひとりひとりの気持ちや、思い、興味に寄り添い関わる事ができた。・未満児では担当制の保育をする事で、より子どもや保護者との信頼関係を深める事が出来た。
5	(職員体制の充実) 職員同士の協力・連携	・大きな行事や日々の保育の中で、声をかけ合ったり助け合うなど協力体制がとれているが、一部では正規と非常勤との意識の差があったり、連携がうまくとれないところもある。みなが同じ意識で保育できるよう、関係する職員みんなて直接話し合う場を設けるなどの工夫が必要。
6	(研修と研究) 研修・研究への取組み	・月1回、理念や接遇、わらべうた、メンターなどの研修に参加をし保育に対する共通理解を深めたり、自己を高める事ができた。キャリアアップ研修に参加し、それを発表し合った。・自主研修にも積極的に参加できた。
7	(安全・衛生管理) 衛生への配慮	・毎月、その季節に応じてどのような配慮が必要か、クラスや年齢ごと話し合い発表し合うことで、皆で気づき合ったり共通理解する事ができた。・毎月、火災や地震、地震からの津波など色々な災害を想定した避難訓練を行うことで、どう避難したら良いのか自分で考え行動することができていた。
8	(地域との連携) 地域との関わり	・普段からお散歩に出かけた時に、子どもから挨拶をしたり話しかけたりする姿があり、近所の方との触れ合いがある。・遠足や夏祭り、餅つきなどに地域のお年寄りを招待し一緒に楽しむ事ができた。

IV. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・「おいたち」では、園での様子や成長の様子が手に取るように伝わってきて、いつも楽しみにしている。 ・保育参観では、実際に保育の様子を見たり、子どもがどのように過ごし、友だちや大人とどのように関わっているのかを見てもらったり、直接担任とじっくり話す事で安心できる。 ・気になったことや心配なこと、悩み事にすぐ対応してくれるので、安心して登園させることができる。
